

ウッディチキン／東京例会

「例会レポート 117」

| | |
|-------|--|
| 日 程 | 2016年10月12日(水) |
| 会 場 | 『株式会社ナンバーズリー東京』 〒150-000 東京都渋谷区神宮前 5-17-7 神宮前トーラス 3F |
| 参加者数 | 約 80 名 (内県外 45 名) |
| 講演会内容 | PM19:00~20:50 ・ウッディチキン東京代表 ブリング代表 大野さん挨拶 ・ウッディチキン伊藤豊代表の話 講演 「生きるってしあわせ ～白血病からの生還～」 大谷 貴子 様 |
| 親睦会 | PM21:00~ |



ウッディキッチン事務局

文章・写真提供／向井 健介

<http://woodychicken.com>

info@woodychicken.com

急にひんやりした快晴の東京に70名の仲間が集まりました！
何回来ても、東西南北がわからない関東平野・・・
来るたび新しいものができており景色が違います！

いつもレポート読んでいただきありがとうございます。
「読んでるよ～」の一言で俄然やる気が上がります。

① 東京ウッディ代表の大野さんから挨拶
4つのお知らせいただきました。



そして、尾池さんという方をご存知の方しか分からないと思いますが、今回来たかったけど群馬で病氣療養中のためこれなかったのもメッセージを紹介してくれました。

大野さんが、写真も送って～と言ったら
左側の写真
顔こわいから、笑顔の写真で～と返したら
かわいいハロウィンバージョンで送って頂けました。

次のページに尾池さんのメッセージお読みください！



こんなん
どうですかね？



こんな可愛いのが
出来ました！

ウッディの皆さんこんにちは、

1年に1回の東京総会の参加で皆さんお逢い出来るのを楽しみにしておりました。
今年は残念ながら不参加となってしまいメッセージを送らせて頂きます。
今年の公演は大谷さんだと知りまして直接お逢いして骨髓バンク創立して頂き
心からありがとうございます、とお伝えしたかったのです。

私の場合、移植しなくて済んだ急性骨髄性でした。
比較的軽めと医者に言われましたがすぐ治療しなければ
余命半年宣告される程絶望的な事でした。
以前、ウッディにて公演して頂き100万分1の奇跡の漫画で
免疫がこの病気に対して出来ていたので心強かったです。

無菌室で抗がん剤治療している時、他の患者さんがほとんど移植する方だったので、
これで命が救われる！大谷さん、ありがとうございます！心の中で叫び続けました。
もし、大谷さんが立ちあがってくれなかったら…と思うとどうなっていたでしょう、
入院してみて始めて分かる健康の素晴らしさ、自分より不公正な人が多くいます。

震災被害者、フィリピンでも自分の目で確認して来ました。
こんなボランティア活動しているウッディは障がい者と言う立場になってしまった
私だからこそ素晴らしい仲間達だと誇りに思えます。

長文で失礼しました
尾池けんこ

② 伊藤代表の挨拶

- ・今年2回フィリピンボランティアができた。
- 今年から、アヤタ族のブライダルプロジェクトが立ち上がった。継続していく。
- ・ウッディ中部が、地域の孤児院の施設にボランティアカットに行っている。
各支部がいろんな活動をしている。善の循環です。
- ・あけぼの学園の活動もいろんなことがあります、進んでいます。
- ・今年の12月に、伊藤代表からウッディチキン会員だけに5年先の美容業界のビジョンをメールで発信します。以前2008年にも作成した5年予測以来です。ぜひ楽しみにしておいてください。



③ 講演「生きてるってしあわせ ～白血病からの生還～」

講師 大谷 貴子さん

プロフィール

慢性骨髄性白血病で余命数カ月と宣告されるが、白血球の型が母と適合し、骨髄移植に成功。助かる可能性はわずか1%という状態から奇跡的に生還。日本初となる骨髄バンクを設立し、2005年～11年まで全国骨髄バンク推進連絡協議会会長。骨髄バンクの普及と“いのちの重み”を伝える活動に奔走中。

昭和36年(1961年) 大阪府生まれ。近畿大学附属中学校、高等学校女子部卒業

昭和61年(1986年) 千葉大学大学院在学中、慢性骨髄性白血病と診断

昭和63年(1988年) 名古屋大学医学部付属病院にて母親から骨髄移植を受け、退院

平成元年(1989年) 東海骨髄バンクを設立

平成2年(1990年) 非血縁者間骨髄移植の成功例を発表 全国骨髄バンク推進連絡協議会発足と同時に運営委員に就任

平成3年(1991年) 財団法人骨髄移植推進財団(日本骨髄バンク)設立し、評議員並びに普及広報委員に就任

平成7年(1995年) 全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長に就任

平成17年(2005年) 全国骨髄バンク推進連絡協議会会長に就任

平成25年(2013年) 全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問に就任



久しぶりに、大谷貴子さんの講演を聞きました。

やっぱりパワフルでした。約90分でしたが、とても元気をもらいましたしなんて行動力のある方なんや～って思いました。

まずは、お話の流れ・・・

「大谷貴子」さんは、1961年大阪に生まれ、千葉大学大学院在学中(25歳)に「慢性骨髄性白血病」と診断され、京大病院に入院し、必死の骨髄提供者探しの末、奇跡的にお母様と骨髄の型が適合し、名古屋大学医学部付属病院にてお母様から骨髄移植を受け、手術も成功し、無事退院されたそうです。骨髄の型の適合率は、移植が可能になるのは兄弟で25%、他人では数千分の1と言われるそうです。

この時、同じ「白血病」で入院されていた1人の少女「さおりちゃん」という可愛い女の子がいたそうです。さおりちゃんとは、お互いに励まし合い、慰め合い、病室で姉妹のように過ごしたさおりちゃんは

14歳で発病し、1人っ子だった為、残念ながら提供者を見出す事が出来ず15歳で亡くなられたそうです。

さおりちゃんの壮絶な、最後の闘いを目の当たりにして、一方で同じタイプの病気になりながら、大谷さんは偶然にも提供者が見つかった助かった、この差は何だろうと考えたとき、「さおりちゃん」にも提供者をプレゼントすることが出来れば助かったのではないかと大谷さんは思ったそうです。

大谷さんは「さおりちゃん」と言う子が亡くなったことをずっと気かけながら「誰もが移植を受けられる世の中にならないか」と「日本初の骨髄バンク」を作るプロジェクトを発足し、運営委員として活躍され、更に、財団法人「骨髄移植推進財団（日本骨髄バンク）」を設立して、評議員・普及広報委員に就任、「全国骨髄バンク推進連絡協議会」の会長として活躍され、現在も全国を飛び回り「骨髄バンク」への登録活動に努めておられるそうです。

感じたことは、実行力と前向きな明るい姿勢です。

何度も何度も壁に突き当たるのは、誰でも経験することだと思います。

大谷さんのすごいところは、全く違う角度でとらえて否定ではなく肯定していく考え方の持ち主だと思います。お話を聞いていて、すごく気持ちがいいです。やっぱりいつも明るく前向きな姿勢大事ですね。

あと骨髄バンク以外でも、情報をいただきましたので載せておきます。

・ 夏目雅子基金

「夏目雅子ひまわり基金」では、カツラの無償貸与を行うと同時に、利用後のカツラに滅菌・消毒・クリーニング・修繕を施し、再度カツラを無償貸与する活動を実施しております。

<http://www.himawari-kikin.com/top.php>

・ 白血病・がん患者の卵子や精子凍結保存

がん治療に関する国内最大の学会、日本癌治療学会が、抗がん剤治療などで子どもをつくれなくなる可能性がある患者を対象に、事前に卵子や精子を凍結保存しておくためのガイドラインを作ることになり、がん患者が治療後も子どもをもてるようにする取り組みが、国内の医療現場で本格的に広まると期待されます。

<http://www9.nhk.or.jp/kabun-blog/200/230632.html>

最後に大谷さんがおっしゃてました。

「なんでやねん」

どんなに困難なことがあっても、いつもこの言葉を自分の中で連呼し怒りをパワーに変えてるそうです。

懇親会





以上です。

次は、沖縄ウッディでお会いしましょう！

ウッディ事務局 向井健介